

第1回蕨市健康づくり推進会議 概要

■ 日 時 平成25年7月5日(金) 午後1時30分～3時30分

■ 場 所 蕨市保健センター2階 健康教育室

■ 出席者 (敬称略)

委 員：吉岡幸子(会長)、金子健二(会長代理)、白根雅之、本吉義博、
渡辺タエ子(土屋久幸委員代理)、植田富美子、柳原登子、伊東光枝、
羽鳥千代子、荒井貞夫、沖永郁子、名久井純子、山内典子、細井秀一、
片方雅善(池田睦委員代理)

頼高英雄市長

事務局：須永福松(保健センター所長)、高橋律子(保健師)、細野亜紀子(保健師)、
横山早百合(保健師)、石丸淳子(管理栄養士)

■ 次 第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ
4. 委員の自己紹介
5. 会長、会長代理選出
6. 議題
 - (1) 会議の公開について
 - (2) 「健康アップ計画」の概要について
 - (3) 平成25年度事業計画(案)について
 - (4) 「健康長寿サポーター養成講習」について
 - (5) その他
7. 閉会

■ 内 容

【委嘱状交付】

市長より、各委員に委嘱状を交付

【市長あいさつ】

【委員の自己紹介】

【会長・会長代理の選出】

「蕨市健康づくり推進会議設置要綱第3条4項」に基づき、本会議の会長は委員の互選によって定めることとされており、会長に吉岡委員、会長代理に金子委員を選出した。

【議題】

(1) 会議の公開について

「蕨市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき、本会議を原則公開とすることで承認された。なお、傍聴者の定員は3名程度、会議当日の午前9時から午前9時30分までに電話受付、先着順での決定とし、傍聴手続きについては、ホームページ上で公開とする。

(2) 「わらび健康アップ計画」の概要について

事務局よりパワーポイント資料を用いて概要を説明

- ・第1期計画の「健康わらび21計画」という名称から、第2期計画では蕨らしさを印象づける名称をと考え、「わらび健康アップ計画」とした。
- ・第1期計画を評価したところ、目標値に達したまたは目標値に達していないが改善傾向にあると評価できる項目は全体の68.8%あり、国の計画評価で公表されている59.3%を上回る結果となっていた。
- ・計画の体系として、基本理念、基本方針、重点目標を掲げており、さらに具体的な取り組み課題を7つの分野に分類し明示している。
- ・計画内容における蕨らしさとして、4点あげられる。
 - ① 77.1%という高い回収率のアンケート調査結果を反映している
 - ② 分野別に重点的な取り組みを明示している。
 - ③ 「健康づくり推進会議」および「健康づくり推進庁内検討会議」という、計画推進を協議する場を設けている。
 - ④ 健康づくりモデル地区事業を展開していく。
- ・WHO（世界保健機関）が提唱している健康戦略「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」というヘルスプロモーションの概念に基づき計画を立案している。

(3) 平成25年度事業計画（案）について

会長：事務局より平成25年度の事業計画案について説明してください。

事務局：身体活動分野として健康密度アップ隊操の普及を考えている。前計画より発足した健康密度アップ隊の活動として、わらびチャレンジデーにおいて健康密度アップ隊操を紹介している。今後も気軽に取り組める運動として普及啓発していく予定である。

健康管理分野のモデル地区事業の展開として、就園前の児を持つ母を対象に、健康密度アップママ講座を開催。地域の健康づくりの手段として考える。

健康まつりでは普及啓発として、タバコやアルコールの健康への影響について情報提供する予定であり、他の参加団体も7つの分野に関連したイベン

ト構成を考えている。

県事業として今年度より実施している健康長寿サポーター養成講習を、随時出前講座等で実施予定である。

またアップ計画自体を普及啓発する取り組みとして、懸垂幕の作成を提案したい。表示するスローガンを本会議で検討していただきたい。

その他、食育分野として市栄養士連絡会（仮称）を発足させる予定である。初めて市在籍の栄養士連絡会を8月に開催予定。食育推進に向けた事業を検討していきたいと考えている。12月に食育推進講座、3月に2回目の連絡会を開催し、食育推進講座の評価および次年度に向けた事業計画の検討を予定している。

会 長： 事業計画案についてご質問やご意見をいただきたい。

委 員： 懸垂幕は設置場所に来た人にしか分からないものなので、啓発手段として、ポスターを配布する方が有効ではないか。

委 員： 紙媒体のPRは、紛失、破損等が考えられるため、長期的に計画の啓発をする方法としては懸垂幕のような形で残るものの方が解り易くPRになると考える。（他委員も賛同）

委 員： 食育事業について、食生活改善推進員などの関連団体が参加する活動はないのか。

事務局： 今のところ計画に直接関わる参加事業の予定はない。当面は、市在籍の栄養士間で検討していきたい。

委 員： 第1期の計画では、健康づくりの一環として、自発的にウォーキングを実践している市民も多いことから、歩行距離の目安として「蕨駅から中山道までk m」など自然に歩きたくなる健康づくり通りなど目安になるものの作成と提案したが実践に至らなかった。

また、現在ラジオ体操を自発的に実践している団体も多いことから、体育協会等の協力を得ながら、できるだけ市民が参加できる催しを増やせると思う。

委 員： 実際チャレンジデーのようなイベントは子供たちを通して親世代も盛り上がり、健康を意識する良いきっかけになると感じている。

委 員： ウォーキングなどは距離の目安のような指針もいいし、歩数をつけられる、記録できるというような自分の実行したことを「見える化」できるような取り組みもあると思う。チャレンジデーのようなイベントを市内5地区で実践するというのも良いと思う。

委 員： 個人が日常の中で継続できることが大切なので、健康まつりなどを利用し正しいウォーキングレッスンなど小さい規模のイベントを行えるのも良いと思う。

- 委員： 65歳以上の市民を対象に平成16年度から行っている「びんしゃん教室」も根づいており、受付を開始すると20分で25人の定員が埋まっている。教室で使用している「貯筋通帳」という記録表もきちんと記載している参加者が多く、いい効果がでていていると考えている。
- 会長： 各委員の意見を参考にして、イベントだけにとどまらず、市民が継続できる具体的な取り組みを計画できると良いと思う。
- 委員： 5年間の計画期間中に7つの分野に関する取り組みが並行して展開しているといいと思う。
- 会長： 7つの分野の中で話題に上がっていない、タバコやアルコールの課題についてもご意見をいただきたい。子供の頃から飲酒しているとドラッグへ移行しやすい傾向があるとも言われている。各委員の関係分野での意見をいただきたい。
- 委員： 学童期の子供と接しているが、現実的な問題はあがっていない。
- 委員： 施設の全面禁煙など、禁煙エリアを拡大してもいいと思う。
市役所でも一部喫煙場所が残っているので、全面禁煙を進めてはどうか。
- 委員： 埼玉県では全面禁煙・空間分煙実施施設の認証をしており、認証施設となっている医療機関もある。施設を全面禁煙にすることは患者指導にも有効である。そのような取組が広がるといいと感じている。
- 委員： 禁煙場所が増えても隠れて喫煙する人はいるだろう。受動喫煙が歯周病にも影響があるなど、何が健康に良くないかを教えるといい。
- 会長： 次に事務局より提案のあった懸垂幕についてのご意見をいただきたい。
- 委員： 懸垂幕について、新しいことに取り組んでいるという意味で、スローガンが入ってもいいと思う。
- 委員： 単年度ごとに交換し、重点目標を掲げていくという作成の仕方でもいいと思う。（他委員も賛同）
- 委員： 現在設置してある中央公民館だけでなく、他の施設にも設置できるといいと思う。
- 委員： 7つの分野それぞれのスローガンがあってもいいと思う。各公共施設へ分散できるとよいのではないか。（他委員も賛同）
- 事務局： 今後、健康課題としてのスローガン自体を、市民に考えてもらうという提案もできると考える。その見本として、本会議で今年度分のスローガンを決めて作成できればと考えている。
- 会長： 事務局より提案のあった健康管理の分野のがん検診についてと食育分野から数点スローガンの案についてご意見をいただきたい。
- 委員： 「がん検診受する家族への贈り物」という内容は分かりやすくいいと思う。食育の内容としては、幅広いニュアンスのものがいいと思うが決めかねる。

事務局： 食育分野のスローガンについては、8月実施予定の栄養士連絡会の中で検討したいと考える。（他委員も賛同）

委員： 計画を周知してもらおうという意味で、スローガンの脇に「蕨市健康アップ計画」という文言を入れるというのもいい方法と考える。（他委員も賛同）

会長： 懸垂幕スローガンについて、委員の意見を参考に事務局にて検討していただきたい。

事務局： 皆様の貴重なご意見を参考にさせていただき、具体的な取り組みを検討したい。

（4）健康長寿サポーター養成講習について

事務局よりパワーポイントの資料を用いて説明

埼玉県では、健康づくりの知識を身につけ、実践する仲間を「健康長寿サポーター」として、2年間で県内100世帯に1人、計30,000人に増やす事業を始めている。「健康長寿サポーター」とは、市町村や県が実施する「健康長寿サポーター養成講習」を受け、自分の健康づくりに取り組むとともに、役に立つ健康情報を、家族、友人、周りの皆に広めていただく方になる。

30分間の養成講習の中で、生活習慣改善につながる健康づくりのヒントを①特定健診 ②食 ③からだを動かす ④その他 の分類で説明し、簡単な修了テストを実施した後、修了証と一体となった健康長寿サポーター応援ブックを交付する。

参加者15名をサポーターに認定。

（5）その他

次回は平成25年11月開催予定とする。

本会議の委員任期は平成27年3月31日とする。

本会議の会議録はホームページ上で公開する。